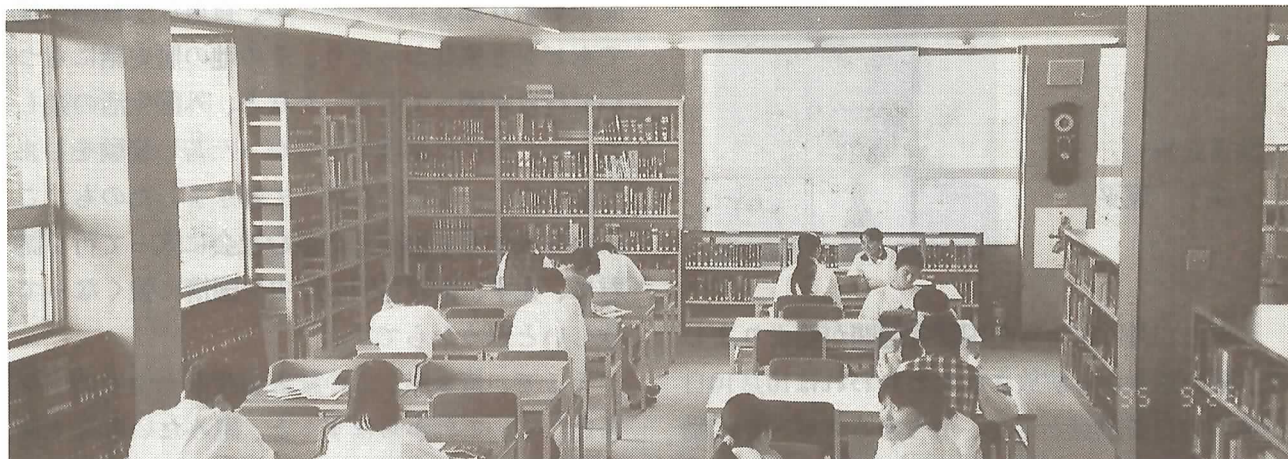


# 図書だより

〈第33号〉

平成7年10月30日  
呉工業高等専門学校  
図書委員会



図書館参考図書コーナー

## 目 次

### 〔巻頭文〕

「読書週間に寄せて」 ..... 図書館長 池上 廉平 ..... 2

### 〔読書感想文〕

歴史 「女」 ..... A1 原田亜由子 ..... 3  
文学 「飼育—第39回芥川賞受賞作品」 ..... E2 菊田 匠 ..... 4  
政経 「ゴミとリサイクル」 ..... M3 竹本 友和 ..... 5

### 〔随想・読書雑感〕

「黄金の国ジバング」 ..... M4 南奉 宏文 ..... 6  
「ふたり」 ..... C5 原 育子 ..... 7

### 〔新任教官の私の推薦する本〕

「自動制御とは何か」 示村 悦二郎著 コロナ社 ..... 機械工学科 山田 祐士 ..... 7  
「ライディングの科学」 和歌山 利宏著 グランプリ出版 ..... 電気工学科 横沼 実雄 ..... 8

〔新着図書10選〕 ..... 9

〔利用統計〕 ..... 11

〔編集後記〕 ..... 図書館長補 榎本 紘二 ..... 12

## 巻頭文

## 読書週間に寄せて

図書館長

池上 廉平



今年も10月27日から全国読書週間が始まりました。夏の猛暑から解放されたわれわれは10月10日の体育の日を頂点として、あらゆるスポーツに励み、興じて来ましたが、これからは落ちついた自然環境で、みんなゆっくりと好きな本を読みましよう。

ここで、皆さんに読書を勧めると、高学年の学生諸君の多くは「自分は技術者志望だからウィークデーは学校でハードな学習を長時間した後、課外活動やスポーツをするので、夜は心身共に疲れ果て、読書などする余裕などなく、また、ウィークエンドには、昼はアルバイト、夜は製図や実験レポートなどを書かねばならず、いつも多忙で、専門の参考書以外の本など読む暇はないよ！」と答えるかも知れません。しかし、忙しいからとの理由で、専門書以外の本を読まずに済ましてよいのでしょうか？人間は、誰でもいろいろな本を読むことによって、幅広い知識を得ることが出来るのだと思います。したがって、技術者志望の諸君は、なおさら専門書以外の本を多く読むことが必要なのではないのでしょうか？

このように偉そうに言っている私も、実は、学生時代は言うに及ばず、企業に入ってから10年くらいは、買った本と言えば、その殆どが専門の参考書類だけと言うお粗末でした。その後、技術営業として、フランス、ルーマニア、インド、ア

メリカ等へ長期出張したときにも、それら国々の歴史を余り知らなかったため、貴重な宗教画を観てもピンと来なかったり、その地の歴史話にもついて行けず困ってしまったなど、外国生活の楽しさも十二分には満喫できなかった苦い経験をしました。ここに私の恥を敢えて書きましたのも、これからますます国際化が進む社会に入っていく諸君に、先ず、世界各国の歴史や国情に強くなって欲しいと思うからです。

そこで、皆さん、この読書週間を一つのチャンスとして、これからはずっと、読みたい本を1冊いつも鞆に入れて持ち歩き、10分でも時間がとれば、それを開いて読むようにしてはどうですか？電車の中でも、昼休みでも、……。そのためには、図書館の蔵書をドンドン借りて、多くの本を読んでください！幸いに本校図書館には、技術参考書の他に、多くの文学書、歴史書、美術書等々、20,000冊以上の本が収蔵されています。この中から好きな1冊を選んでください！

実は、ここ数年、図書購入予算が少なく、その大部分は技術参考書の購入に充てざるを得ず、残り一般図書を少々購入するという苦しい状況が続きました。そこで図書委員会では、今年から数年かけて、学生諸君待望の新刊文学書、歴史書、美術書など一般図書の拡充と、辞典、便覧類の更新、そして、CD、LDの追加などをしていきたいと考え、そのための予算増額について全教官にご協力をお願いしております。この計画が承認された暁には、皆さんからの「購入希望図書・申込書」によるものも加えて、蔵書を早急に充実したいと思っておりますので、ご期待ください。

では、学生諸君「本」を沢山読みましょう！



読 書 感 想 文

歴 史

「女」

(遠藤 周作 著)

A1 原田 亜由子

戦国時代では男がすべてを動かし、その男たちの野望のため女は人生を操られ、子孫をたやさないために在る存在に置かれていました。だまし合いの繰り返される戦いの中、男たちにその運命を握られている女たちはいつも何を想って生きていたのか考えると大体の見当がつかます。この小説で特に織田信長の妹のお市の人生は、私にとって彼女の気持ちになって考えることが怖いくらい悲しいものだったと思いました。彼女は兄の信長に女としての苦しみをこれ以上ないぐらい与えられています。当時の結婚には必ず政治的利害関係がまわりつき、決して個人の自由な恋愛によるものではなかったけどお市の場合はその定められた相手が本当に愛することができる人だったという幸運にめぐり逢い、短い時間だけでも幸せと呼べるものを知ったんじゃないかと思いました。でもその幸せの記憶が後の悪夢をさらに強く彼女を傷つけることになってしまいました。もし彼女が浅井新九郎長政を愛さなかったらその後憎悪や殺意をおぼえなくて済んだかもしれない。血のつながりも友人関係も夫婦もすべてが政治的理由によって意味をなくしたり、壊れたりしていく戦いの中お市は人間としての感情を捨てずに生きた女だと思う。私はこの小説を読んで初めてその気持ちを理解するののできない登場人物に出会った気がしました。それは信長や秀吉だけど、どうしてもその考えや行動の先を読むことができなかった。たぶん彼らを理解するためには人間の長所と呼ばれる部分を捨てなければいけないのかもしれない。それでも不思議と私は私自身のままでこの戦国大名たちの妻や娘の気持ちを理解することができま

した。女と男は平等だというけどその精神面や感情は性別によって分かれてしまうのではないかと思います。だから男であれば野望に心を支配された大名たちを自分に置きかえて考えることができるのではないかと期待しています。もし理解できる人がいたら是非話を聞きたいと思いました。でもその男たちにもどこかで心の支えになっていた女の存在があった様です。信長には吉乃という女性がいて、その彼女だけには人間として長所の部分の感情を示したようです。たとえば優しさや愛情とか。私はそれを知り少し安心しました。なぜかといえばこれは小説ではあるけど、半分以上は現実に歴史の中であった話で、決して作り話ではないからです。“女”というタイトルで歴史小説であり、しかも戦国時代を舞台とした話であるという三つのことに惹かれてこの本を選んだのは、その女たちがきっと精神的にすばらしく強い人たちなんだろうとふと思ったからです。私は幼い頃からいつも強い女の人になりたいと思っていました。欲しい物はほしいと言えたり、腹が立つ時は怒ったり、うれしい時は笑ったり、そんなあたり前のことがどんな状況でもできる“女”になりたかった。私はこの本を読んでまた改めてそう思いました。



## 文学

「飼育」(第39回芥川賞受賞作品)

(大江 健三郎 著)

E2 菊田 匠

つい先日まで大江健三郎が注目の的でありながら、彼の作品を読んだことがない僕はこの機会に読んでおこうと思い、この本を読むことになった。

戦争中、貧しい部落の村に黒人兵の乗った飛行機が墜落した。村人は黒人兵を生けどりにし、主人公の少年一家(父・弟)が住み家になっている物置の地下に住まわせる。初めは黒人兵におびえていたが、しだいに親しくなっていく物語である。

題名の「飼育」というのは、初めて目にする黒い肌の人間を人間とは見ず、家畜と見ていることからつけられたようだ。

この物語にはいくつかのキーワードを見つけさせられた。

まず一つ目は「戦争」である。黒人兵に食事を与えに行く時の、少年のひもじさが読んで僕にヒシヒシと伝わってきて、命や傷ではないところでも「戦争」の与えた影響って大きいなと思わされた。

二つ目は「優越」である。好奇心旺盛な子供達にとって、初めて目にする黒人兵は、もちろん近づきたくてたまらない存在なのだ。そんな黒人兵に、主人公の少年は食事を与えに行き、親しく語りかけ、親しく遊ぶ。そんな時の「優越」感が、大人ぶろうとする少年と、まだまだ子供な少年とを交差させていてとても読み応えがあった。

三つ目は「子供」。いつの時代でも、例え戦争という暗い時代背景にあっても、子供というのは純真だなあと感じた。大人たちが警戒してやまない黒人兵と少しずつ少しずつ親しくなっていく、黒人兵を家畜という見かたから人間として見るようになってゆく。また、そんな子供達の純真さが大人にも伝わり、大人も黒人兵を村の一員として見るようになる。子供が大人と黒人兵を結ぶパイ

プラインのように思えた。

四つ目は「裏切り」である。町の命令で殺されることになった黒人兵は、それを覚り、少年を人質にとって命を守ろうとする。黒人兵を殺すために少年の体を傷つけてでも鎌を振り下ろす父親。純真な子供の世界に裏切りなんて入り込んではいけないのではないかと思う。信じていた者に裏切られた少年の心は深く傷つけられ、大人の世界の厳しさみたいなものを知らされたように思う。また、この日を境に少年が大人になったようにも思った。

最後の五つ目は「死」である。戦争中、幾つもの死を目の当たりにすることによって、子供さえも死というものに対して麻痺しているように思えた。物語の終わりに突然にしてあっけなく死んでしまう書記の場面は、何か謎を残すように、問いかけている様な終わりかただった。



## 政経

## 「ゴミとリサイクル」

(寄本 勝美 著)

M3 竹本 友和

まずこの本を読んだ率直な感想は、人類は、生活(資源)が豊かになりすぎたせいで、リサイクルすることを少し怠っていると感じた。最近便利だからといって使い捨ての品物が増えたのもその原因の一つだと思う。確かに便利だがそうだからといって使っては捨て、使っては捨てていると、地球の資源も限りがある訳だからしまいには、なくなってしまう恐れもある訳である。使い捨ての一つの例は飲料などのペットボトルである。以前までは、1ℓのビンでジュースが売られていたが、それがだんだん減っていき、今日ではペットボトルが主流となっている。確かにビンと比べて落としても割れることがないし、軽量で持ち運びに楽であるし、焼却処理ができ、有害ガスを発生しないという利点がある。しかしその利点がある反面、欠点もある。ペットボトルは、リサイクルの方策が今の所ほとんど提示されていないので、いかに容器としては優れた特性をもっているにも使い捨てであるという大きな欠点がある。これに対して、ビンは、回収可能なので再利用をすれば、資源を減らさないですむし、処理コストや埋立地に悪影響を及ぼすことがなくなる。

今のごみ問題の特徴の一つはゴミの急増ぶりが大都市において特に顕著な点にあるらしい。その要因は、家庭ゴミよりも事業系ゴミがすさまじい勢いで増えていることにあるらしい。どれだけすごいかというと、東京で1985年-89年における家庭ゴミの収集量の伸び率は年平均3.4%にとどまったのに事業系ゴミはその4倍に近い12.2%の伸び率となっている。事業系のゴミの中で最も多いのが紙類(50%)である。二番目は、厨芥(16.3%)である。紙類は、新聞、雑誌、段ボールの他、何といっても最近急激に普及し役立っているFAX、

コピー、パソコン等に用いるOA紙である。これらの普及によって便利になっているもののやはりその副作用として紙類というゴミが多量に増えてしまった。FAXも確かに便利だがなるべく電話を使うようにしたらいいと思う。厨芥は、レストラン、食堂、料理屋、デパート等から出てくる。だいたい前に高速道路のサービスエリアのレストランでバイトをしていたことがあったけど、まあお客の食べ残しによる生ゴミがめちゃくちゃ多かった。中には、この人は本当に、おなかすいたったんか?と思うくらいちょっとしか食べずに残している人がいた。これは料理がまずかったのかもしれないけど、それを見て本当にもったいないと思った。この光景は、絶対貧しい国の人々に見せてはいけないと思ったし、何とかしてこんなことはやめていくようにしなければいけないと思う。こういう事は、やはり豊かになりすぎて、もったいないとかいう感覚が鈍っているのかなと思う。ほとんどの人が実行しても少数の住民でもこのような事に無関心であったり、平気で投げ捨てや置き捨てをする人がいると、ゴミ集積所をきれいに保てず、分別収集の協力も完璧とはいかず、ゴミの散在をなくすこともできない。

ゴミの減量、リサイクルの重要性がこれだけ話題になりながら、ペットボトル等の使い捨てがますます増えてきているのは、まずいと思う。このように重要な資源が再び世に役立つチャンスを与えられることもなく地中に眠らされているのである。これは、何とか考慮しなければいけないと思う。例えば再利用したとしても、古紙を利用したトイレットペーパーは、イヤがる人が多い。このような人は、今の世界のゴミの状況を分かっていない。僕も、この本を読むまではあまり気にしていなかったがこれを読んで埋立地がゴミで埋めつくされる等地球の危機の実態をまざまざと分かったので、少し注意しながら、生活していこうと思った。



## 随想・読書雑感

## 「黄金の国ジバング」

(松藤 民輔 著)

M4 南奉 宏文

今、円高で日本は不況の立場にあると言われて  
います。それは誰もが知るように貿易黒字の問題  
です。

円高＝不況。そんな一般論をも覆し、著者は  
“円高は最大のチャンスである”と唱えています。  
もっともっと円高になってくれと言っているの  
です。僕は驚きました。どうしてそんな事が言える  
のだらうと疑ったのでした。著者の言い分はこう  
です。「いくら円高になってもドル建てで考える  
と日本の資産は減るどころかどんどん増えていく。  
だから円高とは日本の国富がドル・ベースで膨大  
に増えていくことなのです。」なるほど。僕はな  
んだか安心しました。もしそうなら、円高は日本  
にとって素晴らしいことです。確かに1ドル360  
円より90円の方が4倍の力があるように見えます。  
しかし、単純にそれは4倍有利であると言ってい  
いものかどうか僕は少しの疑問を残しました。

今、世界中で金利が最も低いのは日本です。し  
かしそれにも拘らず世界中で日本の国債が人気  
があります。僕はとても不思議に思いました。理由  
は円に実力があり安心できるからだそうです。こ  
れはとても素晴らしい事だと思います。これは日  
本という国の安全性・信頼性を表していると僕は  
思います。YENは最強の通貨になりつつあるの  
ではないでしょうか。著者は治安のいい国ほど通  
貨に実力があると言っていました。僕は深く納得  
した気分でした。

僕が大きく共感した所は、日本の利益（貿易黒  
字）のためにどんどん輸出しようという著者の考  
えです。日本は他国を利用して成長しているとア  
メリカなどから反感を買っています。しかし、僕  
は輸出は続けなければならないと思います。日本

には1ドル80円でも耐えられる新しい技術をもっ  
ている中小企業がたくさんあります。日本の力と  
は高い工業技術力によって得られた国富そのもの  
なのです。発明輸出国日本、それが世界での日本  
の役割ではないでしょうか。輸出をやめてしまえ  
ば何の取り柄もない国になってしまうような気が  
します。世界の人口の半分は発展途上国に暮らし  
ています。世界中には工業製品を必要としている  
人間が山ほどいるのです。輸出は奨めるべきです。

最後に、最終的に日本国の力になっているのは  
国民の努力だと思います。不況の時だからこそ企  
業は努力するのです。そしてそれが資本主義のあ  
り方だと思います。そしてたどり着いた場所、そ  
れが日本の進む最善の方向ではないでしょうか。

## 読書週間

期間：10月27日(金)～11月9日(木)

標語：「本を読んだね！」

いい顔してるよ。」



「ふたり」

(赤川 次郎 著)  
C5 原 育子

めったに本を読まない私なのですが、私の読んだ数少ない本の中から一つ紹介します。

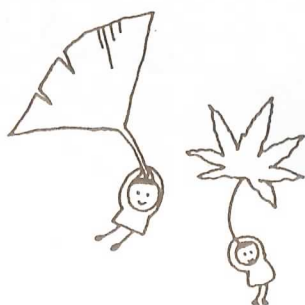
ある事故で姉が死んだ後、両親はもちろん仲の良かった妹はとても悲しみます。ところがある事件で、妹は死んだはずの姉の声が突然頭の中にきこえたことにより助けられます。それから姉との奇妙な共同生活が始まります。

困った事が起きると、どこからともなく姉の声がきこえ助けてくれるのです。だから、いつも一人であっても二人なのです。私は私の中にもう一人の誰かがいて、困った時に相談したり助けたりいつも見守っていてくれたらどんなにいいかと思いました。

姉がすぐ近くで自分を見守っていてくれて、いつでも力になってくれるという安心感から自信もでてきて、妹はどんどん変わっていき成長していきます。何でもできた姉ほどまでにはいかないけれど時々、姉の姿を思い浮かべさせるほどの行動をし、周囲の人たちを涙ぐませる場面もあります。

さまざまな事の出会いを姉と二人でのり越えていきます。そして、妹が姉の死んだ年齢になり、姉が直面したことのない問題と向き合い解決した時、姉の声は妹の中から消えていくのです。

誰でも自分の中にもう一人、物事を一緒に考え教えてくれる人がいれば、どんなに楽かと思うかもしれませんが、自分自身で悩み、考えることによって人は成長するのだと思いました。



新任教官の推薦する本

「自動制御とは何か」

示村 悦二郎 著 (コロナ社)  
機械工学科 山田 祐士

私が初めて制御工学を学んだのは大学の講義でした。制御工学は、工学系の中でも数学的な色合いが濃く、講義でもまず数学の話から始まります。



最初は制御工学に興味を持っていた学生も、多くここで興味を失います。実は、私もここで興味を失いつつありました。しかし、工学実験で、実際に機械をさわって、授業で学習したことを確認することにより、しだいに興味を持つようになりました。そして、大学、大学院と制御工学を学び、現在に至るわけです。

このことから、制御工学を初めて学ぶ学生には、理論を中心にした数学的なものだけでなく、それと並行して制御の実際について学ぶ必要があると思います。

本書は、制御とはどういうものなのかを分かりやすく、数学を使わないで解説してあります。まず始めに、制御を身近なところから説明してあります。そして、つぎに制御の起源から現代制御までの制御の歴史を解説しながら、その中で易しく制御工学にもふれています。そして実際にどのようなところで制御技術が使われているのかも分かりやすく解説してあり、楽しく読むことができます。

したがって、本書はこれから制御工学を学ぶための教科書にはなりませんが、制御工学を幅広く知るための参考書には適していると思います。

## 「ライディングの科学」

和歌山 利宏 著 (グランプリ出版)  
電気工学科 横沼 実雄

今回、図書の紹介をするにあたって悩まされたのが、自分の狭い見識内で、多数の人が興味を持ち、その人達のためになる本である。そこで、事故防止の面からもバイクの本を紹介させて頂く。一部の人のご存知と思うが、私は毎日バイク通勤している。3年生以下の学生には禁止している手前、少し心苦しい所もあるが、これ以外の足は脚しかないし、なによりもバイクを運転しているのが好きである。ただ、実のところ自動車免許を持っていないせいでもある。



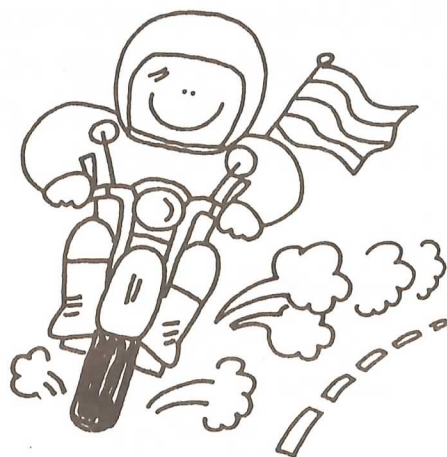
自動車の本と同様、バイクの本も多種多様なものが出版され、主なものを分類すれば、メンテナンス、メカニズム、ライディングの3分野である。それぞれ重要な分野であるが、解説の出版物として見た時に最も遅れているのが、ライディングに関する本である。他2分野は、理論によって丁寧に解説がなされ、理解する能力があれば誰でも同じ知識と結果が得られる。しかし、ライディングに関しては常に感覚的な表現がなされるため(例:「ジワッとレバーを……」等)、誰でも同じという訳にもいかない。その上、「なぜ、そうするのが良いのか」とか「なぜ、そのように動くのか」といった理屈の部分ほとんど無い。確かに、頭でっかちに知識だけで動かせるものではないから、最低限の感覚は実際に乗ってみたいとわからない。しかし、自分とバイクの動作の意味を理解しているかどうかで、特に技術習得の際の進行と安全の点で大きく違ってくるはずである。

そこでライディングの理屈を書いた本として和歌山 利宏著「ライディングの科学」を紹介したい。この本では、バイクの走る、曲がる、止まるの際に、各部がどのように働き、動いているのかを図解しながら解説している。特にコーナリング

(曲がる)に関しては、タイヤ、サスペンション、操舵角、車体それぞれがどのように機能し、力学的にどういう状態にあるかまで、非常に簡単にわかりやすくまとめている。例を出せば、「コーナリング中にハンドルを曲がる方向に(少し)操舵してやるとどうなるか」などである。既に運転歴のある人なら、「車体が急に起き上がる」のは経験上知っていると思うが、では「なぜ起き上がるのか」に関して説明できる人は少ない。実際、販売店の人に聞いても納得できる合理的な説明はなかなか得られなかったし、大抵は「そういう特性なんだよ。」(確かにそうだが)でそれまでである。答えは、自分で読んで見つけてもらいたい。

運転歴のある、ないに関わらず、バイクに興味のある人ならば、少なからず抱いているはずの疑問を晴らすのに役立つはずである。興味のない人、物理嫌いの人にも、さし絵だけでも見て頂きたい。漫画調で、なかなかわかりやすく面白い解説も書いてある。

私は、この本のおかげで色々考えながら、楽しくバイクに乗れている。私程度のスピードと技量でも、シートやステップに路面の変化やタイヤの動きが感じられて非常に楽しい。そのおかげか、7年以上も無事故のカメのままである。





## 新 着 図 書 1 0 選

### 「秦の始皇帝99の謎」

渡辺 龍策著 (PHP研究所)

中国最初のエンペラーとなった始皇帝は、なぜ万里の長城を造ったのか。なぜ儒者を生き埋めにしたのか。なぜ不老長寿の仙薬を手に入れようとしたのか、手に入ったのか。秦帝国はなぜ滅び去ったのか。その真実の人柄と波瀾に富んだ生涯の全貌を、99のQ&Aで明らかにしたロマンとミステリーにあふれた1冊である。

(橋本記)

### 「チベットの死者の書の99の謎」

おおえ まさのり著 (二見書房)

ヒマラヤ山中に何百年も秘蔵されてきたこの書物が私達の目の前に現れたのは最近のことであった。著者の一文を引用すると、「どんな書物なのでしょう。それはまさに死後の世界のガイドブックなのです。死について私たちの多くは何も学ぶことなく死んでゆきます。死を教えてくれる学校はなぜかほとんどありません。すべての人が死ぬというのにです。この『死者の書』は、そうした魂の要請に応えようとするものです」と。

(橋本記)

### 「遊星歯車と差動歯車の理論と設計計算法」

両角 宗晴 (日刊工業新聞社)

遊星歯車装置は、構造の小型化と大きな変動比(1/100程度)が得られることから減速装置や増速装置として広く用いられている。

遊星歯車機構は駆動軸、伝動軸、固定軸の3本の基本軸からなり、各軸は同一水平軸にあり、この装置の効率計算は伝達動力や回転数の推定に極めて重要である。本書は軸トルクや効率の計算に至る経過について詳しく記述しており、各軸の回転角速度を重ね合わせ法で計算するなど設計技術者の実用書である。また、機械工学科のカリキュラムにある「機構学」において、多段歯車装置の回転角速度の計算に本書は利用できる。

(灘野記)

### 「画像処理アルゴリズム」

斎藤 恒雄著 (近代科学社)

画像工学は、画像の生成、撮影、計測、伝送、記録、蓄積、処理、表示、認識や識別などの広い領域を含んでいる。本書では、コンピュータやデジタル信号処理技術を使用して、2次元または3次元情報である画像の生成、修正や変換を扱っている。また、画像処理の領域の中でいくつかの重要な問題を取り上げ、画像処理法として導き出される過程やアルゴリズムのもつ意味などについて詳しく述べている。

(野原記)

### 「小型水力発電入門—身近な水力利用技術」

千矢 博道著 (パワー社)

本書は水力発電の原理をやさしく解説し、身近な自然の水力源を電気エネルギーに変換して活用する方法と、そのためにいろいろ工夫している人達の実例が紹介されております。皆さんも一読すれば、小水力発電が身近なものとなり、きっと興味が持てると思います。水力発電の原理を理解し、身近な水力源の利用とエネルギーの有効利用を工夫してみてください。楽しくなると思います。

(奥本記)

### 「パソコンによるランダム信号処理」

清水 信行・千葉 利晃著 (共立出版)

内容はフーリエ解析を中心とした連続信号のデジタル化、デジタル信号の基礎理論、ランダム信号の基礎理論と処理法、線形システムとその入・出力表現の基礎理論である。本書の特色は、多くの図面と例題を示し理論の理解を助けていること、処理プログラムリストを掲載していることである。

(加藤記)

## 写真集「後世への遺産」

青山士写真集編集委員会編 (山海堂)

青山士(あきら)は、大学卒業と同時にパナマ運河の建設工事に単身で参加し、帰国後、内務省の技術者となって荒川放水路や信濃川大河津分水路の建設工事に携わった人物。土木学会で初めて、「社会疑惑を招く行為をしてはならない」などと記した「土木技術者実践要綱」をまとめ、頑固なまでに不正を嫌ったことでも知られる。

本書は、多数の写真や資料、知人や家族などの証言をとおして彼の土木技術者としての一生を追っている。

(阿部記)

## 「写真集テラ」創景する大地

柴田敏雄(写真)・中村良夫(文) (都市出版)

土木の写真と聞くと施工中の記録や竣工写真、土木構造物の偉容を強調した作品を想像しがちだが、柴田氏はそれらとはまったく異なる世界をモノクロ写真で展開している。タールの防水布とネットで覆われた山腹やコンクリートをもちいた川の根固めなど、時には自然破壊ととらえられがちな被写体も多い。しかし、中村氏(東京工業大学教授・景観工学)が本書に寄せているように、どの作品も墨絵のように美しい。純粋な芸術作品としての写真が並んでいる。

(阿部記)

## 「建設博物誌」

鹿島建設編 (鹿島出版会)

超高層・大空間・橋・トンネルのテーマごとに歴史編、技術編、構想編を設けて、建設分野の知識や話題を豊富なイラストとともに簡潔に解説している。例えば、トンネルの項では、青函トンネル工事中に出現した魚や地下トンネルが登場するシャーロック・ホームズの小説、動物の冬眠に関する話題を載せるなど“雑学”も多く、一般の人でも楽しんで読める内容。

(阿部記)

## 「マンガの現代史」

吉弘 幸介著 (丸善)

「少年ジャンプ」(集英社)の発行部数は600万部を越え、日本出版史上最高部数を誇る。この数が我々日本人の現代生活の与える影響は無視できない。本書は、現代生活に欠かせないものとなったマンガを通して、我々現代人の思想、ライフスタイルの変遷を再考する手がかりを与えてくれる。

(篠部記)

## 「新・建築入門—思想と歴史」

隈 研吾著 (筑摩書房)

全ての文化領域で「近代主義の否定」が叫ばれ、建築においては、この20数年間にモダニズムからポストモダニズム、ディコンストラクティビズムなどへと、そのデザインの潮流は目まぐるしい変化を遂げた。本書は、建築様式の変遷を背景にある思想の流れから解き明かそうとしている。

(篠部記)



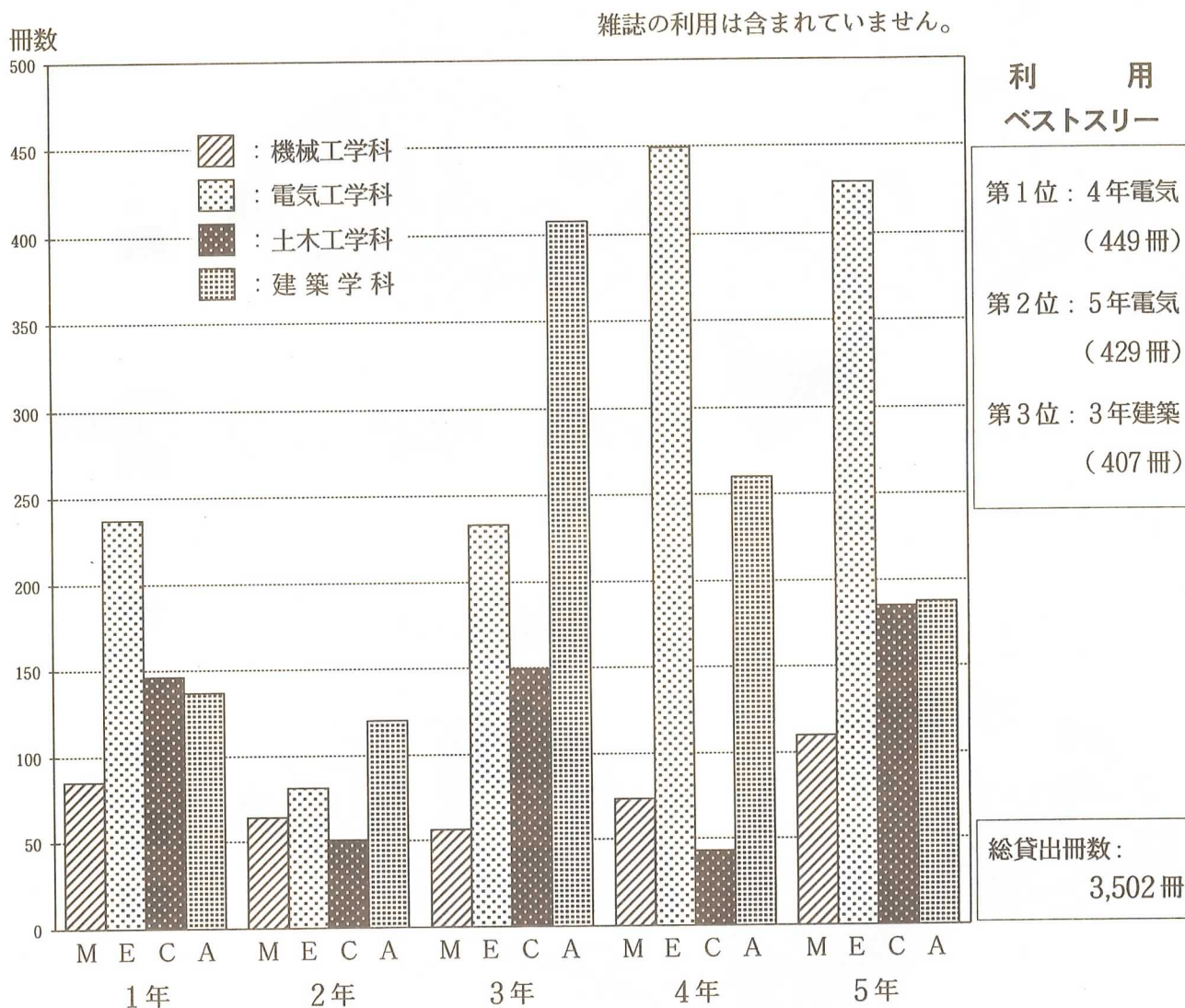
## 「図書館では静かに」

## 「読んだ本は元の位置へ」

## 「返却期限を守ろう」



# 平成7年4月～8月利用統計（クラス別）



平成7年4月～8月の図書の利用統計です。雑誌の貸出しは含まれていませんので、実際にはこれ以上に利用されています。上の棒グラフはクラス別のものです。クラスによってかなりの差があります。次の円グラフは各学科がどの分野の図書をよく読んでいるかがわかります。学科によって差はありますが、技術・工学分野の利用が多いようです。

皆さん、読書の秋です。専門分野の図書の他に、文学、哲学、芸術……など幅広く読書をして大いに自分自身を高めると共に、グラフの棒も高めてください。

また、図書館では是非備え付けて欲しい本がありましたら、「購入希望申込書」に記入してカウンターへ提出してください。（用紙はカウンターにあります。）

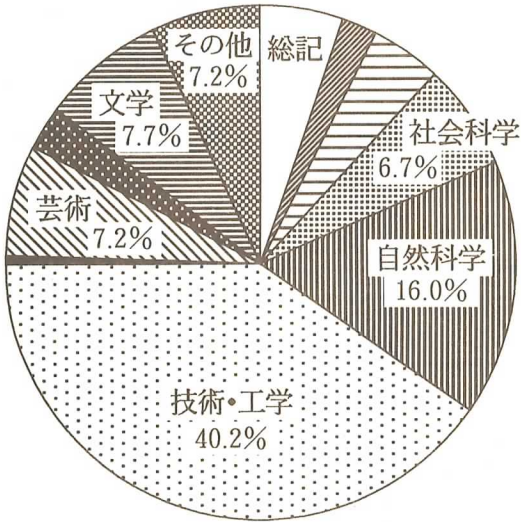
LDも昨年末80枚購入しましたので、大いに利用してください。

図書係

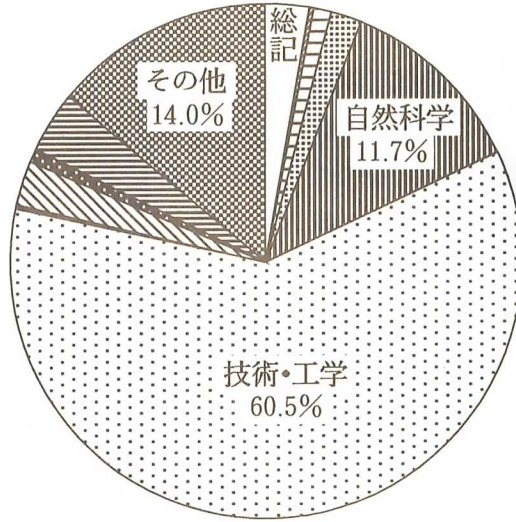


# 分野別利用状況（学科別）

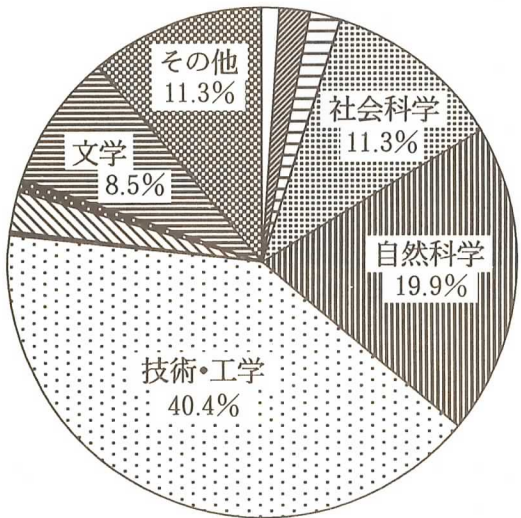
機械工学科



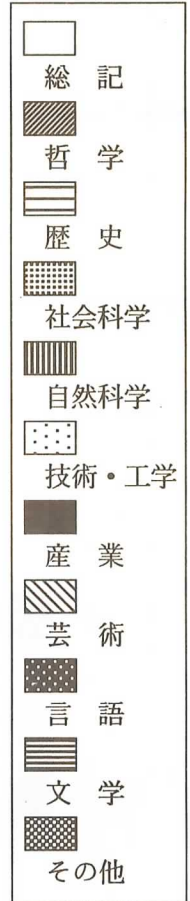
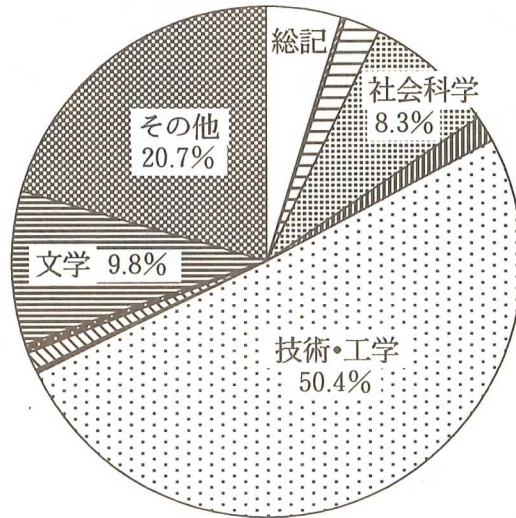
電気工学科



土木工学科



建築学科



分野の「その他」は新潮文庫等の文庫本です。

## 編集後記

今号より紙面が縮小されて、学生諸君の読書感想文などの掲載が十分にできなくなりました。それだけに、これまで以上の工夫が必要となってきました。バラエティーに富んだ内容と情報を満載した、そして皆

さんのご要望に応えることのできる「図書だより」を目指しています。ご意見、ご助言をお待ちしています。図書係までお寄せ頂ければ幸いです。

(図書館長補 榎本 紘二)